



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ピッグズ湾 (A)

5

引き継がれたキューバ問題

1960年初め、アイゼンハワー政権は、CIA（中央情報局）の指揮のもとに、ガテマラにいるキューバ人亡命者を訓練して開放軍にすることを許可した。同年の大統領選挙の少し前、この開放軍を、ゲリラ部隊ではなく、通常の戦闘部隊に編成することが決定され、装備も大幅に増やされた。

そして、この計画が、1961年から新しい大統領となったジョン・F・ケネディに、キューバ問題として引き継がれた。その計画に含まれていたのは、ガテマラでアメリカ人による訓練を受けていたキューバ人亡命者の一団、フロリダに逃れていたキューバ人政治家たちの委員会、亡命者たちを故国へ侵入させる計画、それから、キューバの国土でその委員会を臨時政府として就任させる計画、などであった。

ケネディ大統領は、当選後、パームビーチの休養先で、CIAのアレン・ダレス長官と次官の訪問を受け、状況の説明を聞いた。ケネディは、その規模の大きさと大胆さに驚き、初めから深刻な疑惑を持った。

しかしCIAの担当者たちは、その計画を熱心に売り込んだ。そのうえ、この計画は今においては絶対に実行できない、とも言った。彼らの主張した理由は次の3つであった。

第1に、亡命者軍はもう十分に訓練をつみ、戦闘をしたくてムズムズしており、手綱を押さえきれないほどの士気になっていた。

25

本ケースは次の資料から引用しつつ高木晴夫によって1991年に作成された。

「ケネディ 栄光と苦悩の一千日」(原書名:A Thousand Days)

Arthur M. Schlesinger, Jr. 著 中屋健一訳 河出書房刊

「ロバート・ケネディ 13日間 キューバ・ミサイル危機回顧録」

(原書名:Thirteen Days; A Memoir of The Cuban Missile Crisis)

Robert Kennedy 著 毎日新聞社外報部訳 毎日新聞社刊

「ケネディの道」(原書名:Kennedy)

Theodore C. Sorensen 著 大前正臣訳 サイマル出版会刊

30

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。